江別市立豊幌小学校
学　校　だ　よ　り

令　和　４　年　度　　号　外
全国学力・学習状況調査 **結果**
発行：令和４年１０月２７日
発 行 者 ： 悪 七　広 仁

江別市豊幌４１９番地
０１１-３８３-４４４０
豊幌小ホームページ→

令和４年４月19日(火)、全国の小学校６年生、中学校３年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。本校児童の分析、結果がまとまりましたので、お知らせします。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の学習指導に役立てることを目的として行っています。本校も目的を踏まえ、今回明らかになった課題を分析し、課題解決のための授業改善に努めて参ります。

学　力　調　査

1．結果概要

全国平均正答率との比較から見た本校の結果

	国　語	算　数	理　科
本校の平均	**下回っている**	**同様である**	**やや上回っている**
全道平均 〔正答率（正答数/問題数）〕	64　(9.0/14)	61　(9.8/16)	63　(10.7/17)
全国	65.6(9.2/14)	63.2(10.1/16)	63.3(10.8/17)

2．教科ごとの傾向

（ア）国語　領域ごとの結果

学習指導要領の内容		全国平均正答率との比較
知識 及び技能	(1) 言葉の特徴や 使い方に関する事項	**低い**
	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	**相当低い**
思考力、 判断力、 表現力等	A　話すこと ・聞くこと	**低い**
	B　書くこと	**やや高い**
	C　読むこと	**相当低い**

（イ）算数　領域ごとの結果

学習指導要領の内容	全国平均正答率との比較
数と計算	**やや高い**
図形	**ほぼ同様（上位）**
測定	**ー**
変化と関係	**同様**
データの活用	**相当低い**

（ウ）理科　領域ごとの結果

学習指導要領の内容		全国平均正答率との比較
A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	**ほぼ同様（下位）**
	「粒子」　〃	**同様**
B 区分	「生命」　〃	**相当高い**
	「地球」　〃	**ほぼ同様（上位）**

今年度の調査問題（正答例、解説）は　こちら　→

3．各教科の傾向と指導改善のポイント

（ア） 国語

① 全国と比較して**正答率が高かった**問題　問題番号３一

> **文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうか**をみる問題です。

（正答）　　1

※ 引用することで書き出しを工夫する、事実と感想とを区別して書き出しを書く、自分の考えとその理由を最初に書く、といった観点で、文や文章を整える力が求められます。

② 全国と比較して**正答率が低かった**問題　問題番号２一（１）

> **登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうか**をみる問題です。

（正答）　　1

※ 森田さんが、模型の宇宙船を抱きしめた「ぼく」の気持ちを複数の叙述を基に考えていることを捉える力が求められます。

■本校の指導改善のポイント■

○ **文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問いに対してよく理解していることがわかりました。**
　文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフなどの用い方は適切かといったことなどを観点として推敲することが重要です。今後も丁寧な指導を心がけます。

○ **登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える指導の充実**
　物語全体を見通して、①複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるようにすること　②その際に、「どこからそう思ったのか」など、捉えたことの基になる叙述を明らかにすることを指導します。

○ 国語を中心に、授業の中に「話し合い活動」を多く取り入れ、自分の思いや考えを相手に伝える経験等を高めていくようにします。

○ 要約する力をつけていくため、学年の発達段階に応じながら説明文を中心にキーワードに注目させていく活動、それをもとに要約文を書く活動を授業の中に多く取り入れ、低学年から書く力を積み重ねていく指導を充実させます。

　そのほか、今年度の全国学力・学習状況調査の報告書では、次の２点についても課題と捉え指導充実の必要性をあげています。

○ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること

○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

（イ） 算数

① 全国と比較して**正答率が高かった**問題　問題番号１（３）

示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

（正答例）

１列のカップケーキが７個ずつ３列あります。3列の値段が1470円なので、1470 を３等分すれば１列に並んでいるカップケーキ７個分の値段を求めることができるからです。

② 全国と比較して**正答率が低かった**問題　問題番号１（４）

表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる問題です。

（正答例）　　４８－（１７＋１３＋１２）＝６

■本校の指導改善のポイント■

○ **数量の関係を捉え、除法の式の意味を説明する問いに対してよく理解していることがわかりました。**

一つ分の大きさ、幾つ分、幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりすることができるようにすることが重要であり、また、それらについてよく理解していることが結果からわかりました。今後も丁寧な指導を継続します。

○ **問題場面の数量の関係を式に表す指導の充実**

四則を混合させたり（ ）を用いたりして一つの式に表すことには、数量の関係を簡潔に表すことができるなどのよさがあることを実感できるよう指導を充実させます。

○ **複数のグラフから目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る指導の充実**

目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができるような指導を充実させます。また、過去のチャレンジテストなども活用しながら前学年までの既習事項であるグラフの特徴やそれらの用い方について再確認します。

○ 「データの活用」では、知識をもとに目的に合うグラフを選び、読み取った情報を考えることが求められていることから、基礎的学習に加え単元末にある「いかしてみよう」「つないでいこう算数の目」といった活用的部分を大切に扱い、学習内容を生かす算数的考え方を身につけさせていきます。また、各学年とも「データの活用」に関連する単元は扱う時数が少ないことから、「計算」同様にプリント等を活用して繰り返し練習に取り組みます。

（ウ） 理科

① 全国と比較して**正答率が高かった**問題　問題番号１（３）

昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる問題です。

（正答）　　２

② 全国と比較して**正答率が低かった**問題　問題番号３（２）

問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる問題です。

（正答）　　２

■本校の指導改善のポイント■

○ **知識（昆虫の体のつくり）を理解しているかどうかをみる問いに対し、よく理解していることがわかりました。**

知識をより深く理解できるようにするためには、複数の対象について調べ、調べたことを関連付けることができるようにすることが重要です。例えば、昆虫の体のつくりについて、頭、胸、腹といった部分に着目し、タブレット型端末などを活用しながら、複数の昆虫の体のつくりについて関連付けて説明し、理解を深める学習活動が考えられます。

○ **観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける指導の充実**

問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定することが大切です。また、問題を解決する際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする指導を充実させます。

○ 他教科同様「他者にわかるように書く」活動に日常的に取り組ませ、表現する力、記述する力をより高めていきます。さらに、ＩＣＴを効果的に取り入れながら科学的な見方・考え方を養っていく活動も取り入れます。

児 童 質 問 紙

（ア）全国平均を上回っている特徴的なもの

1. 普段（月曜日から金曜日）、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする子の割合が多い。とくに３時間以上の割合が多い。
2. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると感じている子の割合が多い。
3. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと６年生児童全員が考えている。
4. 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている子の割合が多い。
5. 家で自分で計画を立てて勉強（学校の授業の予習や復習を含む）をしている子の割合が多い。
6. ５年生までに受けた授業でコンピュータなどのＩＣＴ機器の使用頻度が多いと感じている子の割合が多い。
7. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている子の割合が多い。
8. 算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える子の割合が多い。

（イ）全国平均を下回っている特徴的なもの

9. 学校に行くのが楽しいと感じている子の割合が少ない。
10. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、勉強をしている子の割合が少ない。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
11. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、読書をする子の割合が少ない。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。１時間以上）
12. 今住んでいる地域の行事に参加していると感じている子の割合が少ない。
13. 理科の勉強は好きと感じている子の割合が少ない。

（ウ）昨年度と比較して改善が見られるもの

14. 自分には、よいところがあると感じている子の割合

    昨年度は、全国を下回りましたが、今年度は全国を大きく上回りました。

■本校の改善のポイント■

○ ゲームの時間、携帯・スマートフォンの動画視聴の時間が、全国を上回っています。とくに「心とカラダと未来を守るためのスマホ・ネットの４つのルール『**えべつスマート４ルール**』」で取り上げている２時間を超えている子の割合が極めて大きいことがわかりました。

学校だより、保健だより、ホームページ等を通じてICT機器の長時間使用による健康被害、生活習慣の乱れなどについて情報発信していきます。

各ご家庭においても子どもたちへの指導をお願いいたします。

以前発行したほけんだより「**ほんわか** No.１４」より～抜粋～

・１時間使ったら、１０～１５分は休憩する。

・まばたきをする。

・背筋を伸ばして、目はタブレットなどから３０～４０センチ離す。

・寝る時間を守る。

・寝る３０分～１時間前には、ユーチューブやゲームなどをやめる。

・タブレットなどの機器を使う時間が長かったり、**寝る前に見たり**するとブルーライトの影響を受けて目の疲れやまぶしさ、頭痛や肩こりを起こしたり、夜に眠れず、**朝起きられなくなったり**します。

○ 昨年度、自己肯定感の低さが児童質問紙調査よりわかりました。その結果を受け、子どもたちに対し肯定的な声かけを増やすことを全職員で確認し、その取り組みを継続してきました。

今年度「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は、全国を上回り、「自分には、よいところがあると思いますか」も改善、全国を上回りました。保護者、地域、学校とが一体となって取り組んだ結果、自己肯定感が向上しました。「肯定的な声かけ」は、信頼関係の構築につながります。今後も、肯定的な声かけを保護者、地域、学校が一体となって継続していきましょう。

○ 「PC・タブレットを使用した学習」は、全国を大きく上回り、活用が進んでいることがわかります。先日、低学年へタブレットを配布し、全児童への配布が完了しました。週末のタブレット持ち帰りも３年生以上で始まりました。今後もタブレットやデジタル教科書の効果的な活用を進めていきます。

○ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善が進められていることが「７．学級の友達との間で話し合う活動…」の結果からわかります。本校の研究テーマ「言葉を通じて自らと向き合い、共に高め合う子どもの育成」の実践を通して今後も授業改善を進めていきます。

○ 「理科が好きか」の質問に対し、全国を下回りました。コロナ禍により制約を受けるものの、実験方法を工夫したり、ICT 機器を効果的に取り入れたりしながら科学的な見方・考え方を養っていくことで「理科好き」な子どもたちに育てていきます。